

子どもが主体的に探究する授業づくり

総合的な学習の時間研究会議

研究員 石橋 修一 (川崎市立藤崎小学校) 加地 盛一郎 (川崎市立高津小学校)

下茂 綾子 (川崎市立白鳥中学校) 宮本 健太郎 (川崎市立住吉中学校)

指導主事 大野 恵美

I 主題設定の理由

総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる時間である。それは、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たしていくものである。また、総合的な学習の時間は、日常生活や社会の中で、容易には解決に至らない複合的な問題を扱う探究的な学習であり、その本質を探って見極めるために、主体的、創造的に取り組むことが求められている。

主題を設定していくにあたり、研究員で現在行われている授業について話し合ってみると、「体験活動が目的とされた学習になっている」、「教師の立てた課題のみで授業が行われている」等、子どもが主体的に活動し、探究的な学習となる授業づくりの難しさが改めて浮かび上がってきた。

そこで、主題を「子どもが主体的に探究する授業づくり」とし、実践を通してその成果と課題を明らかにしていきたいと考えた。

主題に迫っていくためには様々な視点が考えられるが、探究的な学習とするための学習過程における「課題の設定」と「整理・分析」に焦点をあて、「子どもが本気になって考え続ける課題の設定」、「考える力を育むための効果的な思考ツールの活用」という主に2つの視点に絞り、研究を進めることとした。

II 研究の内容

1 子どもが本気になって考え続ける課題の設定

子どもが主体的に探究的な学習を行っていくためには、一連の探究の学習過程において、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することが欠かせない。そのために指導者は、子どもが本来もっている知的探究心・好奇心を刺激し、引き出し、興味・関心を一層高めるための工夫をする必要がある。子どもの知的探究心・好奇心を引き出し、子どもが自ら課題を設定していくために、指導者は具体的にどのような支援をしていけばよいのかを探ることとする。

2 考える力を育むための効果的な思考ツールの活用

「小(中)学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」において、総合的な学習の時間の目標には「学び方やものの考え方を身に付ける」ことが示されている。教師は授業の中で「何を」「どのように」考えていくのかを明確にする必要がある。また、比較する、分類する、関連付ける、類推するなどの思考に合わせた思考ツールを活用していくことで、ものの見方や考え方を学び、自分の活動を決定したり方向性を見出したりすることができるようになることを考える。目的に応じ、効果的だと考えた思考ツールを授業の中で活用しながら検証していくこととする。

3 検証授業

(1) 中学校2年生「働くことと向き合い自己を見つめよう」

①単元の目標

職場体験学習を通して、地域の方々から働くことに対しての思いを聞くことで各自が課題を設定するとともに、「働くこと」と向き合い、今後の日常生活においても具体的な目標を立て、実践していこうとする。

②評価計画

単元で育てようとする資質や能力及び態度

[学習方法に関すること]

ア 体験を通して、自分なりの考えをもち、意欲的に情報を収集しようとしている。

イ 情報を多角的に整理・分析し、課題に迫ろうとしている。

[自分自身に関すること]

ウ 将来の夢や希望を具体的に描き、今の自分と比較しながら目標に迫ろうとしている。

[他者や社会とのかかわりに関すること]

エ 保護者や地域の方々、外部機関との連携を通じて、様々な考えに触れ、視野を広げようとする。

オ 他者との協同的な学習の中で、自分を見つめ直そうとしている。

③指導と指導の計画 (中学校 2年) 40 時間扱い

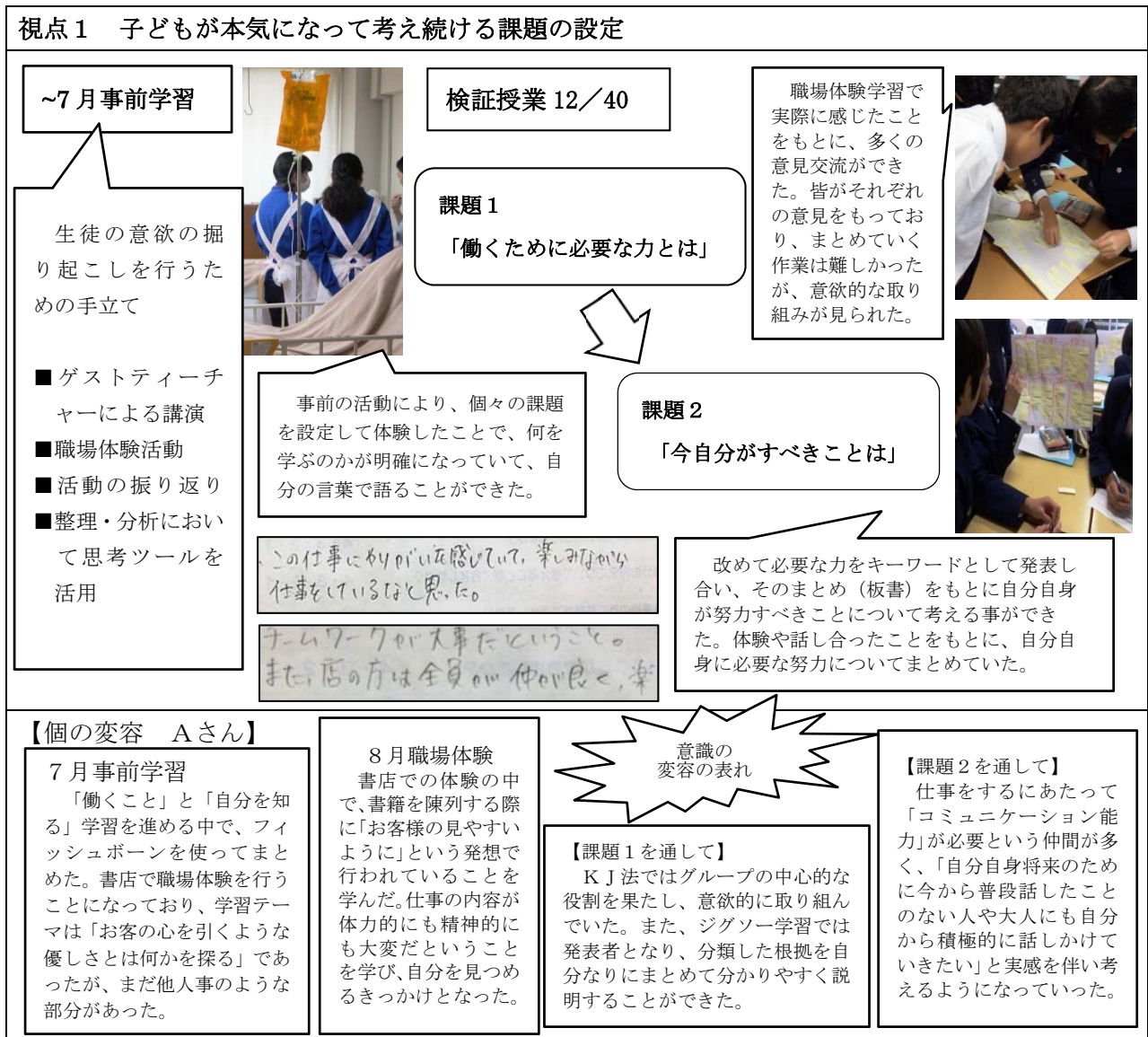
	探究の過程	時数	活動の展開	評価
探究活動1	活動の動機付け	①②	○今後の授業について確認し、計画を立てる。 ○働くとはどのようなことかを調べる。	学ア
	【情報の収集】	③④	○仕事をするのに必要な力を話し合う。	自ウ
	【整理・分析】	⑤	○自分の長所・短所を知る。	学イ
	【情報の収集】	⑥⑦	○自己PR書を作成する。	他オ
	【整理・分析】	⑧	○課題達成に向けてゲストティーチャーの必要性に気づき、質問したいことを深める。	他オ
	【情報の収集】	⑨	○質問を考え、実際に働いている方に話を聞く。	自ウ
		⑩⑪	○質問を考え、実際に働いている方に話を聞く。	学ア他エ
	【整理・分析】	⑫	○結果を整理・分析する。	学イ
	【まとめ・表現】	⑬	○分析したことを発表する。	学イ
	【課題の設定】	⑭⑮	○職場体験するにあたっての個人の課題を設定する。	他オ
探究活動2	【情報の収集】	⑯⑰	○体験先の職種についての情報収集を行う。	学ア
	【整理・分析】	⑱	○職種、課題に合った質問事項を検討する。	自ウ
	【情報の収集】	⑲～⑳	「職場体験学習」2日間行う。	学ア自ウ他エオ
	【整理・分析】	㉑㉒	○体験のまとめ・個人とグループで行う。	学イ他オ
	【まとめ・表現】	㉓～㉔	○模造紙へのまとめをする。	他オ
		㉕	○職種ごとの発表会を行う。	他オ
		㉖	○代表者による学年発表会を行う。	他オ
	【整理・分析】	㉗	○「働くために必要な力とは何か」について話し合いを通じて考える。	学イ他オ
	【まとめ・表現】	㉘	○「今、私はどんな努力をするべきか」をまとめる。	学イ

④授業の視点

本研究の主題である「子どもが主体的に探究する授業づくり」のためには、生徒自らが課題意識をもって活動できるような教師の意図的な工夫を行うことが大切である。また、生徒が切実感をもって自らの課題に向き合うためには、全体の課題の設定とともに、個々の課題の設定が必要であると考えた。今回はそれぞれの職場で体験して得た情報を整理・分析した。また、考え続ける課題へと高めていくために、課題の設定に際しても、話し合い活動を取り入れ、可視化、操作化するために適切な思考ツールを指導者が選択し、活用することとした。

主題に迫るため、「子どもが本気になって考え続ける課題の設定はできていたか」、「考える力を育むための効果的な思考ツールは適切であったか」に視点をおいて、検証授業をした。

⑤授業における研究主題・内容との関わり



【視点1の考察】

職場体験学習を行う前の学習において、意識の掘り起こしを教師が意図的に行うことによって、生徒一人一人が職場体験学習へ行くための課題を明確に設定することができた。このような生徒の姿になるためには、指導者が生徒の学びを把握しておくことや、体験活動から得た情報を整理・分析していくための事前の準備が大切であった。

視点2 考える力を育むための効果的な思考ツールの活用

〔検証授業 12/40〕

グループでの話し合い1
KJ法 (4人グループ)



グループでの話し合い2
(4人席で1人発表)

《本時まで使用
した思考ツール》

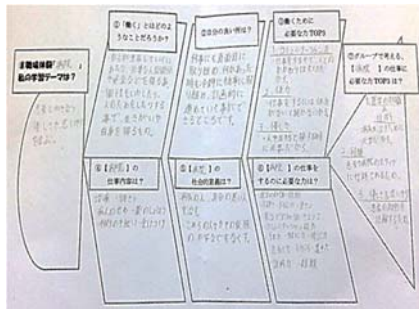
- ・ KJ法
 - ・ フィッシュボーン
 - ・ ピラミッド
- チャート



意欲的な取組の様子が
見られ、多くの意見が出た。一方
で根拠を明確にして分類することが
難しかった。分類する際の根拠を
もたせるために、生徒が「なぜ」、
「どうして」を感じる場面設定が
必要であった。



一人が発表のために残り、他のメン
バーは移動してプレゼンを聞いた。
短時間で集中して行うことで、話
す量を適切に考え話していた。し
かし、理由においては、根拠が弱
くなってしまった。



全体での話し合い
座標軸を意識した板書

発表の後に改めて必要な力について
生徒に発表させた。それを担任が座標
軸を意識して板書した。視覚的に残し
ておくことで、生徒は板書を見なが
ら自分のすべきことを考えており、効果
的であった。

【個の変容 Bさん】

～7月事前学習

和菓子屋で職場体験をするため、和菓子屋の仕事について様々な視点から考えた。中でも特に、細かい作業が求められると考え、学習テーマを立てた。その際にはフィッシュボーンを使用し、『集中力がどのような場面で発揮され役立つのかを探る』という課題を立て体験に臨んだ。

8月職場体験

従業員の方との交流の中で、技術的な部分はもちろんのこと、お客さん本位で努力する姿勢に感銘を受けた。技術的な部分だけでなく、商品の向こう側にあるお客様の存在について考えさせられた。

意識の変容の表れ

職場自慢では発言することなく、仲間の意見を聞いていた。KJ法の際には必要な力として「優しさ」「コミュニケーション」など、体験を経て学んだことを発言することができた。

必要な力について全体の前で「スマイル力」と発言することができた。お客様との交流を第一に考える店舗での体験や、その後のグループワークの結果が発言することにつながったと考えられる。また、ジグソーを経て仲間の意見を聞き、自分の今後の努力目標を「コミュニケーション」「礼儀」と考えた。その理由として、「人と関係を大切にするため」としていた。自分と相手との関係性を深く考えることが出来ていた。

【視点2の考察】

考える力を育むためには、じっくりと思考する時間やそれを表出させる場を確保していくことが大切であった。体験したことを振り返り、自分の考えを人に伝える時間をすぐに確保することで、日頃自分から進んで話すことが少なかった生徒が、自分の言葉で意欲的に語る事ができた。また、自分の考えを他の人と相互に伝え合うことによって、自分自身を振り返り、さらに具体的に努力すべきことを見出すことができた。

思考ツールに関しては、生徒が考えることに合わせて吟味する必要があった。本授業では、「仕事をするにはどんな力が必要か」について、生徒の考えを分類し、必要な力について深く考えるようにした。しかし、分類の根拠が曖昧だったために、分類する度にキーワードがまとまりすぎてしまうという弊害が起こった。分類するのではなく、一人一人の考えを拡散させていく方法が適切であった。また、熊手チャートやフィッシュボーンなど、要因を出して考えを整理していく思考ツールを用いる方法もあったのではないかと考える。

全体で話し合う場面において用いた座標軸を意識した板書については、思考が可視化され考えやすくなったため、さらに意見を出していく上で有効であった。

(2) 小学校4年生「みんなにやさしいまち～福祉～」

①単元の目標

高齢者の立場になって交流会の企画・運営をすることを通して、自分たちの身の回りには様々な事を抱えながら生活している人がいることに気付き、進んで力になれることを考え実践する。

②評価計画

(1) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

[学習方法に関すること(課題を見出し、解決する力)]

ア、学習対象に進んでかかわり、共通体験した中で、自分がこだわりたい課題を見つけようとする。

イ、支援者のアドバイスを受けながら、追究方法を選び、体験や活動を通して情報を集め、比較・分類しながら考察する。

[学習方法に関すること(まとめ・表現する力)]

ウ、調べて分かったことや考えたことを図や表などを使ってまとめる。

エ、聞き手を意識しながら、自分の思いや考えたことを分かりやすく表現し、伝える。

[自分自身に関すること(自己を振り返る力)]

オ、体験活動や人とかかわりを通して、人の気持ちを考え、自分の生活を振り返る。

カ、学んだことを生活に生かそうとする。

[他者や社会とかかわりに関すること(かかわる力)]

キ、地域の人や支援者と進んで関わろうとする。

ク、友達と互いの思いや考えを伝え合い、それぞれの考えのよさに気付き、自分の考えを深める。

③指導と評価の計画 本時を明記

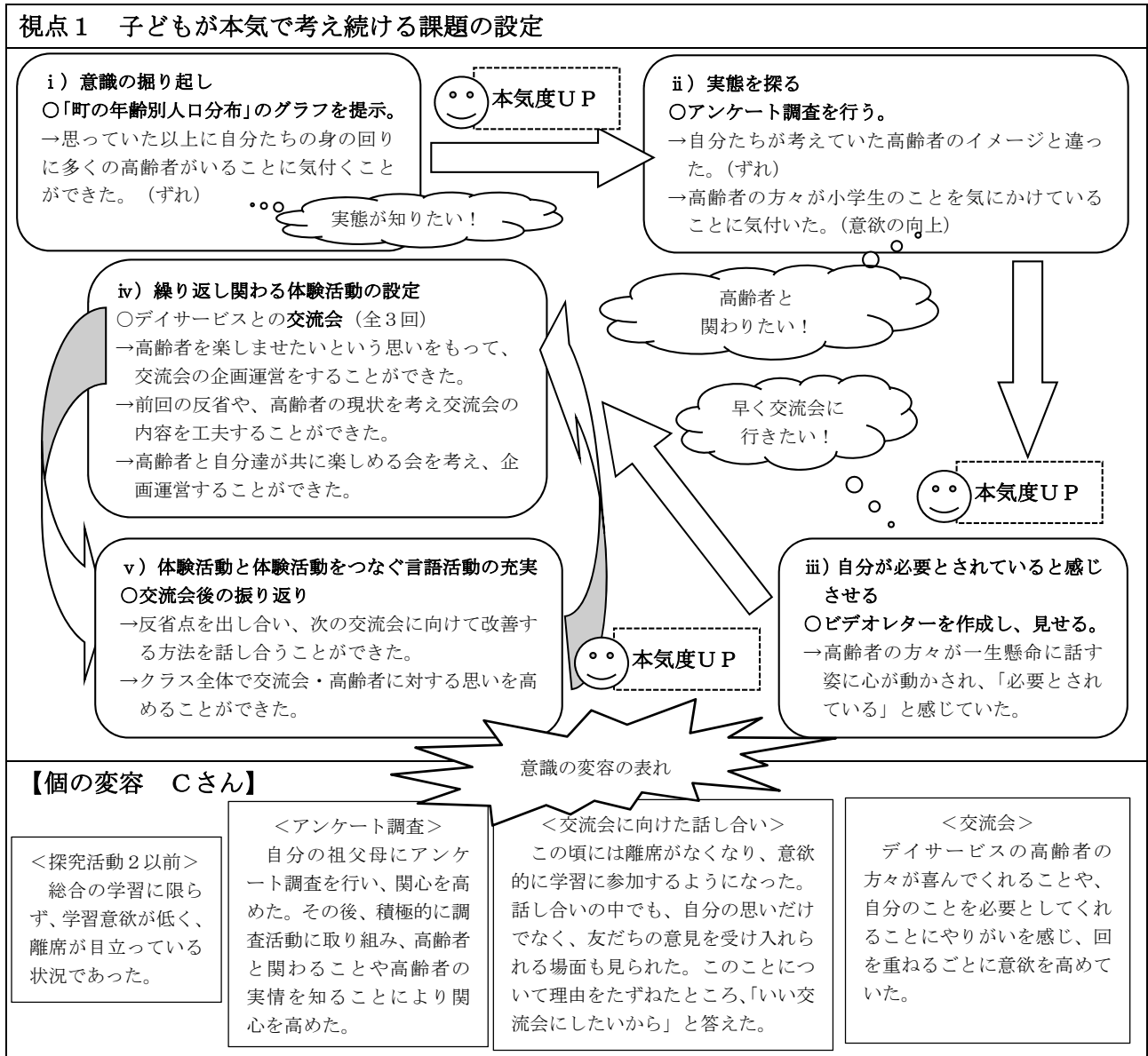
	探究の過程	時数	活動の展開	評価
探究活動1	課題の設定 【情報の収集】 【整理・分析】 【課題の設定】 【情報の収集】 【整理・分析】 【まとめ・表現】	① ②～④ ⑤ ⑥ ⑦～⑩ ⑪⑫ ⑬	○単元名の「みんな」とは誰なのか考える。 ○福祉体験学習をする。 ○体験活動を基に調べたい内容を整理する。 ○課題を設定する。 ○自分の課題について調べる。 ○調べたことから、これからの自分の生活の在り方について考える。 ○調べたことやこれからの自分の生活の在り方について発表する。	学ア 自力 学ウ
探究活動2	活動の動機づけ 【新たな課題の設定】 【情報の収集】 【整理・分析】 【まとめ・表現】 【情報の収集】 【整理・分析】 【まとめ・表現】 【情報の収集】 【整理・分析】 【まとめ・表現】 【情報の収集】 【整理・分析】 【まとめ・表現】	⑭ ⑮～⑰ ⑱⑲ ⑳㉑ ㉒～㉕ ㉖㉗ ㉘㉙ ⑳～㉓ ㉔～㉗ ㉘㉙ (本時) ㉚㉛ ㉜ ㉝～㉞ ㉟㊱ ㊲㊳	○藤崎の町の人口分布などの資料から、高齢者が多く生活していることに気付く。 ○藤崎の高齢者にアンケート調査を行う。 ○アンケート結果を集計し、藤崎の高齢者の実態を把握する。 ○高齢者施設を訪ねて、仕事内容を理解し、高齢者と交流する。 ○高齢者とのふれあいを通して、分かったこと、気付いたことの意見交流をする。 ○気付いたことや配慮しなければならないことを整理し、分析する。 ○2回目の交流をする。 ○2回の高齢者とのふれあいを通して、分かったこと、感じたことの意見交流をする。 ○2回の交流を通して、気付いたことや配慮しなければならないことを整理する。 ○各グループで、目的にあった活動ができるように考えながら準備をする。 ○3回目の交流会をする。 ○交流会の感想交流をする。 ○高齢者との交流や体験したことをもとに、福祉ガイドブックにまとめる。 ○3年生に学習の成果を伝え、ガイドブックを渡す。	他キ 学ウ 他キ 他ク 学ウ 他キ 他ク 学ウ 他ク 学イ 他キ 自オ 他キ 学エ

④授業の視点

1つ目の視点「子どもが本気になって考え続ける課題の設定」をするために、i) 意欲の掘り起こし、ii) 実態を探る、iii) 自分が必要とされていると感じさせる、iv) 繰り返し関わる体験活動の設定、v) 体験活動と体験活動をつなぐ言語活動の充実の5つの手立てを考えた。これにより、子どもが本気になって考え続ける課題の設定ができたのかを検証する。

2つ目の視点「考える力を育むための効果的な思考ツールの活用」をするために、思考の種類に適切な思考ツールを用意すること、教師側が子どもたちに何を考えさせたいのか明確にしておくことの2点を踏まえ、検証することとした。

⑤授業における研究主題・視点との関わり



【視点1の考察】

i) ~ v) の手立てを行うことによって、主体的に課題の設定ができるようになった。特に体験前の i) 意欲の掘り起こしの成果が挙げられる。交流の内容を振り返り、同じ体験をした仲間の思いが込められた言葉を整理・分析することで、子ども達は自然に次の活動に向けて課題を設定し、意欲を高めていった。

また、今回の活動においては、全体の課題から個人の課題を設定する前に、グループの課題を設定することにした。これにより、学級全体の課題が、各グループの課題となり、さらにそのグループの課題を解決するために各個人が役割を担い主体的に学習に臨むことができた。

視点2 考える力を育む効果的な思考ツールの活用

クラス全体の企画

グループ内の企画会

「2回目交流会を計画しよう」

「グループの計画書を作ろう」

- ・前回の反省点
- ・3回目のテーマ
- ・配慮事項

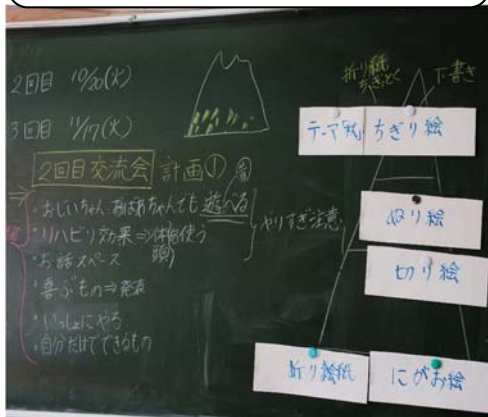
- グループの決定
- プログラムの決定

- ① 3回目交流会のテーマ
- ② 2回目の反省点

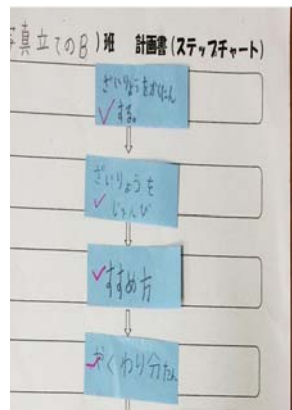
◎様々なアイデアを**焦点化して考える**
思考ツール「ピラミッドチャート」

◎活動内容の見直しを**多面的に考える**
◇思考ツール「PMI」

◎グループの計画書を**順序立てて考える**
思考ツール「ステップチャート」



PMI用紙		
P(プラス)	M(マイナス)	I(インタレッシング)
いいところ	だめなところ・心配なこと	おもしろいところ
のびやか やさしい 2回目交流会 のめり絵が おもしろい おもしろいところ のびやか やさしい	費用がかかる 準備が大変 おもしろいところ のびやか やさしい	おもしろいところ のびやか やさしい おもしろいところ のびやか やさしい
しりとり 活動が面白い



○長所・短所が明確になった。
○活動内容についてメンバー全員の共通理解につながった。

○優先順位が視覚的に明確になった。
○意見を比較するのに有効だった。

○付箋による視覚的効果と操作性が有効だった。
○計画の順序が明確にまとまった。

【個の変容 Dさん】

意識の変容の表れ

<探究活動2以前>
学習中の発言が消極的で、自分の考えを表すのに文章で表現する方を好む。

<ピラミッドチャート>
活動内容について、全体的に「ぬり絵」が優勢の中、「ちぎり絵」をやりたいと自発的に発言した。「ちぎり絵は、ぬり絵に比べて手を活発に動かすのでリハビリ効果がある」という理由を語り、多くの賛同を得ることができた。

<PMI・ステップチャート>
「写真立てグループ」の副リーダーになり、積極的にグループの話し合いを行っていた。付箋に自分の考えを書き、友だちに自分の考えを伝えていた。また、付箋を並べ、友だちの考えと自分の考えを比較しながら「こっちのほうがいいよ」と意見する場面も見られた。

【視点2の考察】

指導者が「焦点化して考える」「多面的に考える」「順序立てて考える」といった「どのように考えるのか」を明確にすることで、適切な思考ツールを選択し活用することができた。また、適切な思考ツールの活用により、話し合いの最中において、論点がずれにくくなった。

話し合いの約束として「根拠を話す」ことを確認したが、ステップチャートで並べ替える際には、根拠もなく付箋を移動する児童が多いのが気になった。お互いの考えを理解するためにも、自分の考えの根拠を語るような手立ての必要性を感じた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 子どもが本気になって考え続ける課題の設定

子どもが主体的に探究的な学習を行っていくためには、子どもが自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することが欠かせない。そのためには、教師は単元のゴールを明確にイメージし、課題を設定する前に、意図的に子どもに働きかけ、意識の掘り起こしを丁寧に行うことが重要であることが分かった。中学校の検証授業においては、自分の中にある能力に気付かせるためにエゴグラムを活用したり、外部講師から話を聞く活動を行ったりすることで、個人課題を明確に設定して職場体験学習に臨むことができた。また、職場体験学習で得た学びを互いに発表し合う中で、働くために必要な力を普段の生活でどのように生かすのかという課題へと発展させることができた。小学校の検証授業においては、高齢者が日々感じていることのアンケート調査を交流する前に行うことで、自分が抱いていたイメージとのずれから「なぜ」「どうして」という気持ちを引き出し、主体的に課題の設定を行うことができた。また、高齢者と繰り返し関わり、その都度、考えたことを子ども同士で伝え合いながら検証をすることで、課題意識が連続発展していくことになった。

2 考える力を育むための効果的な思考ツールの活用

考える力を育むために、効果的な思考ツールの活用を視点としてあげたが、その前に授業において、「何を」「どのように」考えさせるのかを明確にし、それに見合った思考ツールを活用していかなければ効果的にはならないことが分かった。特に、「どのように」考えさせるかの部分は、本時のゴールのイメージをしっかりともって臨むことが大切であった。また、思考ツールはグループ活動で用いたが、思考ツールを活用することによって出てきた考えを、全体で共有して課題解決をしていくことが大切であり、思考ツールの活用が目的にならないように注意していかなければならないことを改めて実感した。

3 今後の課題

子どもが本気になって考え続ける課題の設定や、考えを育む効果的な思考ツールの活用は、総合的な学習の時間における探究的な学びを支える大切なものである。これらを学校全体で共有し、単元の中に位置付けていくための具体的な方策を考えていきたい。

最後になりましたが、研究を進めるにあたり、ご指導・ご助言を賜りました研究員所属校の校長先生をはじめ、教職員の皆様に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

【参考文献】

- 文部科学省 『今求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 小学校編 中学校編』 2010
田村 学 『授業を磨く』 東洋館出版 2015
田村 学 黒川 晴夫『考えるってこういうこと「思考ツール」の授業』 小学館 2013
日本生活科・総合的な学習の時間教育学会 『生活科・総合の実践ブックレット』 第9号 2015

【指導助言】 大野 恵美 川崎市総合教育センター 生活科・総合的な学習の時間